

様でムります、實に人間と云ふ物は今日有て明日無い命と申しますが、ほんにモウ頼り無い物でムります、まアどうぞ後々をお大事に……』

『へエ誰方さんも、此度は豪いもう………』

『コラ貴様は黙つてえ。子供の癖に要らん事を云わいでも宜えワイ。』

其内に葬禮もズツと出ましたのでお供をいたしまして、お墓まで参りましたが、此時分はモウ阿部野へ移て居りまして、唯今の様に便利な乗物もムりませず、葬禮送りも中々大ていぢやムりまへなんだ、戻りも又テク／＼歩きまして橋筋から戎橋を北へ渡りて参ります。

『ナア番頭はん』

『何ぢやい』

『貴方ア何ぞ忘れてなはれしまへんか』

『いや解らん。今日は氣が急か／＼するのでな。何ぞ墓へでも忘れて來たかな……と云ふて別に忘れ物も無い様に思ふが……』

『いや。おまつせ………』

『何やいな一體』

『貴方何時かて日の暮れに此處通たら、丸萬の鰻鮓屋へ這入て鳥渡一杯飲みなはるやろ。そいで私い

かにて小田卷取とくなはるやおまへんか。去んだら皆に狐よばれた云ふときや云ふてナ。……餘んまり早ふ喰ひないナ。酒飲む者が慌はしなふてドム成らん、足らにや鰻鮓など、も一つ貰ひいナ云ふて、定つたアるやおまへんか。それに貴方云ふたら、今彼の表通つてるのに、知らん顔してドン／＼／＼／＼歩いてなはんね。そら誰方かて御都合の有る事だす依つて、無理に小田卷や無ふても、鰻鮓でも拘めしまへんねけど、ヒヨツと忘れてなはんのやつたら可かんさかい、鳥渡云ふて見たんだすね』

『アハ、。いや左様か。いや／＼忘れてやへんね。お前も遠道歩いて定めしお腹も空いてるやろと、能ふ氣は附いてるねが、今日はまア辛拘しとき、今度ゆつくりした時に又連れて這入たる。鳥渡今日は左様してられんね、氣が急いて叶わんのや』

『何がそないに氣慌わし無うおまんね』

『いや、貴様が若旦那の番をしてるのなら俺しも安心するのやが、何しろ龜吉は年も往かす頼り無い若しも不在中に彼奴が居眠りでもして、若旦那を出したてな事が有ると、親旦那に申し譯が無い、そや依てに一寸も早ふ歸り度いのや』

『そやけど番頭はん、一寸一杯飲みなはる位の間はおますやろ、僅の間位何だんね』

『サア、左様やろけど、何しろ氣が落ち附かんのやさかい仕様が無い、まア早ふ歸ろ』